

施設紹介（後期研修プログラム紹介）

医療法人財団 河北総合病院 東京・杉並家庭医療学センター

The Tokyo Suginami Centre for Family Medicine, Kawakita

一戸由美子

医療法人財団 河北総合病院 東京・杉並家庭医療学センター

都市部における医療サービス構造と家庭医の役割

一般的に都市部には、大学病院、医療センターなどの高度先進医療機関や専門病院が集中しており、専門医療は全国平均からみると比較的、充足されているように思われます。

この医療の高度化や専門分化が発展している都市部においては、「かかりつけ医」として包括的・継続的に診療にあたる医師の役割と存在が注目されにくくなっており、またプライマリ・ケアの重要性もこれまでさほど語られないまま、課題として残されているように思われます。

しかしながら、都市部は人間疎外、青少年の犯罪、家族や地域コミュニティの崩壊、独居高齢者の存在などの問題を多く抱えており、家庭医が家族やコミュニティと一体となり活躍できる潜在的な場所であるように思います。また、2次、3次医療に関わる専門医が多い中、これら医師の本来の役割を高め、住民が迷うことなく適切な医療へアクセスするように促すためにも、1次医療に関わる家庭医の果たす役割は大きいと考えられます。都市部においては家庭医療（一般診療）が病院（専門診療）と連携し、かつ機能分化を進めることによって、これまで専門医だけでは手の届かなかったケアを強化し、より質の高い、適切な医療提供が実現されるように思われます。

General Practitioner（家庭医）のIdentity

WONCA Europeが示した家庭医の定義（2002年改訂）の「家庭医の専門性」に基づき、当センターでは以下のように家庭医を定義し、研修医が「家庭医としてのアイデンティティ」を確立できるように目指しています。

- ・年齢、性別、疾患を問わず、医療的ケアを必要とする方に最初に関わりをもち、包括的かつ継続的なケアの指針を立案する。
- ・患者自身、患者の家族、地域そして文化背景を常に考慮したケアを提供する。
- ・患者を繰り返し診ることによって得られた知識と信頼関係を十分に活用し、身体的、心理的、社会的、文化的そして今ある現象を統合しながら、治療指針を患者と交渉する。
- ・家庭医の職務である、健康増進、疾病予防、疾患の治療・ケア・緩和（cure/care/palliation）を遂行する。
- ・以上の任務は直接あるいは間接的（地域の中で活用できる医療サービスにアクセスできるように支援する）に遂行される。
- ・効率的で安全なケアを提供するために、家庭医は自身の技術、パーソナルバランスと自己価値を発展させ維持しなくてはならない。

施設紹介（後期研修プログラム紹介）

医療法人財団 河北総合病院 東京・杉並家庭医療学センターの特徴

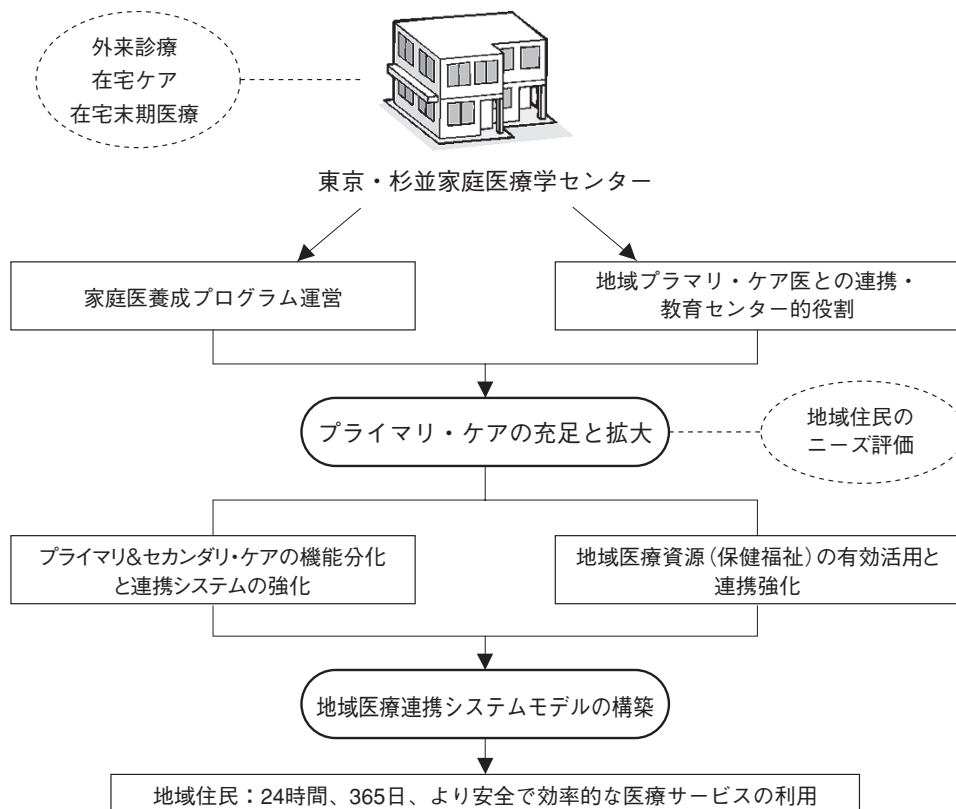
創立78年と古い歴史をもつ河北総合病院は、地域中核病院として地域医療機関との連携を重視しながら、杉並区50万人の住民の健康管理に携わってきました。また、1948年にインターン研修病院、1988年に臨床研修病院としての指定を受けて以来、数多くの研修医を養成し教育病院としても豊富な経験と実績を保持しています。この歴史的背景を生かし、さらに地域密着型の医療サービス提供を強化するために、当センターでは、日々の診療を通して家庭医の教育・養成を行なうと同時に、都市部での地域医療モデルの創造に取り組みます。

東京・杉並家庭医療学センター（河北サテライトクリニック）の診療部門

1. 外来診療

英国の医療の原点となる基本理念である「ゆりかごから墓場まで」、すなわち小児から高齢者までを対象とするプライマリ・ケアを外来診療で実践します。家庭医とは、地域の住民の「医療への窓口(Health Gate Keeper)」の役割を果たし、誰もがいつでも気軽に身体的・精神的な健康に関わる問題を相談できる医療プロフェッショナル集団です。患者の抱えている問題に速やかに対応（診断・治療）し、また専門医による高度医療が必要な場合は、速やかにこれをアレンジメントできるよう、幅広い医療知識・技術そしてマネジメント能力を備え日々の診療にあたります。

また、予防から療養まで、すなわち「病気のと きも」、「健康なとき」も住民の方々と関わるために、疾病予防・健康増進活動などを積極的に行な



図：地域での東京・杉並家庭医療学センターの役割

施設紹介（後期研修プログラム紹介）

います。そして、その地域全体に生じている健康問題とは何か、何が必要かを考察し、保健・健康・福祉環境を向上させるための活動を行いません。

2. 在宅ケア

患者の住みなれた場所を医療介入の主な場とし、患者とその家族に焦点をあて、「生活者中心の医療とケア」とは何かについて考えます。

複雑・高度な医療管理を終えた患者、長期にわたる継続治療の必要な障害者や小児・高齢者が、社会生活から隔てられることなく、これまで同様に住みなれた地域社会で、近隣の人々とのふれあいや助け合いの中で、医療サービスを受けながら生活していくことを大切にします。

3. 在宅末期医療 (End-of-Life Care)

自宅で死を迎える人の割合は約13%に過ぎないという事実（厚労省1998年）がある一方、70歳以上の高齢者の9割は自宅で死を迎えたいと希望しているという報告があります（人口動態社会経済面調査）。

本来、生と死は家庭の中にあり、日常的な出来事として我々が身近に経験することでした。「人生の終わりは自宅で過ごしたい」と望む患者に対し、病院の専門医と家庭医が連携し支援します。患者とその介護者が抱える身体的・精神的・社会的な苦痛や不安を取り除くことに焦点をあてたケアと、チーム医療（家庭医・専門医、看護師、介護福祉士、薬剤師、MSW、ケアマネジャーなど）を実践します。

研修プログラム（予定）紹介

2007年度開始の当センターのプログラムは、日本家庭医療学会の提示する家庭医療学研修カリキュラムに沿ったプログラム構築を基本とし、また、英国家庭医学会（Royal College of General Practitioner）の基本理念、教育方法、評価方法を導入し、より質の高いGlobal Standardな後期研修プログラム構築を目指している。

1. Training Objectives（目標）

家庭医療の専門性について理解し、家庭医療が社会の中で果たす役割を考え、家庭医としてのIdentityと家庭医として診療するために必要な知識・技術・態度・価値観を習得する。

2. Educational Methods（教育方法）

東京・杉並家庭医療学センター／家庭医後期研修カリキュラムに基づいた研修内容を履修し、研修期間中は各専門科指導医と家庭医指導医により評価(Formative & Summative Evaluation)とフィードバックを受ける。

主な臨床研修の場として、河北総合病院（各診療科）、河北サテライトクリニック、外部研修の3つを柱とし、臨床実践から得る学びを基本とし、さらに体系化した教育方法（individual case discussion, video consultation review, group study, teaching/lecture sessionsなど）を導入する。

3 Training Schedule（研修スケジュール）

下表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Year 1	Clinic	ER		緩和ケア			内科強化コース					
	Half Day Back											
Year 2	選択研修			小児科 研修	クリニック（外来&訪問診療）							
	小児科外来研修（週1日）				選択外来研修（週1日）							
Year 3	産婦人 科研修	クリニック（外来&訪問診療）								地域医療		
		産婦人科外来研修（週1日）				選択外来研修（週1日）						

施設紹介（後期研修プログラム紹介）